

■ 鋼管型落石防護柵工法

Sシールド工法

NETIS登録番号：HK-170009-A

Sシールドは鋼管を用いた自立式落石防護柵である。従来の落石防護柵の課題であったコンクリ基礎による土工の発生、端末支柱の設置位置の制限、支柱ピッチが3.0mだけしかなく設計の自由度が少ないという点をクリアした防護柵である。

■特徴

①柵面を支柱に固定させずに取り付けることで、取付位置がスライドし、衝突エネルギーの分散や吸収

を効率よく行う。

- ②エアーハンマー式削孔機により下部工を施工できるため、大掛かりな重機を用いる必要がない。
- ③落石対策便覧(H29年12月)に準拠した性能検証実験を行っており、確かな性能を検証できている。
- ④支柱間隔を3～6mまで伸ばすことができ、現地に即した割付が可能である。



CCM協会 事務局

〒103-8306 東京都中央区日本橋3-6-2

TEL.03-6366-7795

FAX.03-3278-6870

URL. <http://www.ccm-kyokai.jp>

E-mail. info@ccm-kyokai.jp